



第551号

学校だより

1月号

横浜市立東本郷小学校

令和5年1月10日

ひとにやさしくありがとうの^{こころ}で ^{さいら}がんばる^{さいら}がんばる^{さいら}最後まで ^{ほんま}本気で^く取り組む^くひがほんの子

未来は自分たちの手で

学校長 ^{どうごし}堂腰 ^{やすひろ}康博

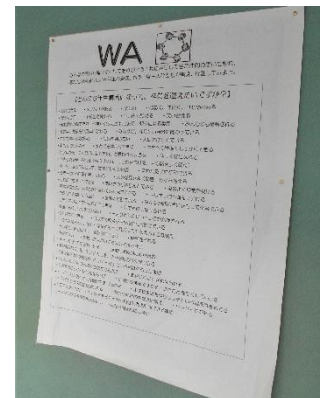
明けましておめでとうございます。いつもより少し長めの、17日間の冬休みでしたので、年末年始をふるさとや行楽地で迎えたり、ご家族そろってお祝いや伝統的な行事に触れたりする等、ゆったりと過ごすことができたのではないのでしょうか。年の初めにあたりまして、東本郷小学校の子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

本校舎4階の多目的ホール（通称：オアシスホール）は、丹沢の峰々と美しい富士山がよく見える場所なので、人気スポットとして親しまれていますが、そのホールの通路側に、卒業までに僕は！わたしは！の思いを寄せた6年生のコメントが掲示されています。担任たちから投げかけられた「どんな6年生集団になって卒業を迎えたいですか？」の問いに「仲良く・楽しく・笑い合っ」等、様々なキーワードが存在しているのですが、中には、よくぞ聞いてくれましたというように、「東本郷小の顔であり、他学年のあこがれであり、頼りになる集団になりたい」とか「自分たちがよい学校をつくっていくんだという意識をもった集団になりたい」等、今こそみんなで考え、語るべき、という気持ちが伝わってくる意見もいくつか見られました。

わたしは一人ひとりの回答を通して、子どもたちの「小学校6年生」としての意識や価値観は、コロナ禍であっても揺らぐことはなかったのだということを感じられました。新型コロナに振り回された日々も含めて、最高学年としてみんなを引っ張っていく主体性や、互いに支え合い、認め合っていく一体感を大切にしながら、今まで通りではなく、「新しい当たり前」の小学校生活にしようと思って努力してきた6年生たちのこれまでと、これから先も具体的な行動につなげていこうとしている姿に、とても大きな勇気をもらいました。（12月の出来事です。）

さて、始まったばかりの1月ですが、これから登校する日数は48日間（1～5年生は52日間）と少なく卒業式がより近く感じる時期にすぐに入ってきます。わたしたち教職員も6年生の思いをしっかりと胸にして、人としての大きな成長と、仲間との協働を経て、悔いのない旅立ちへとつながるよう、日々を大切に過ごしていきたいと、新年になってこの掲示物を眺めながら、あらためて思っているところです。

4月には、5年生は最上級生になり学校をリードします。1年生から4年生までは、進級して新しい学習にチャレンジします。お互いに学び合い、育ち合える東本郷小学校で、一人ひとりが力を蓄え、たくましい子どもたちが育つように、みなさま、どうぞ変わらぬご支援・ご協力を、2023年もよろしくお願いいたします。



ホールに掲示された6年生のコメント